

令和6年度第1回浜松市介護保険運営協議会 会議録

1 開催日時 令和6年9月12日（木）午後7時から午後8時まで

2 開催場所 浜松市役所 本館8階 第3委員会室

3 出席状況

（1）浜松市介護保険運営協議会委員（50音順）

出席 8名 磯部智明委員 杉山晴康委員 鈴木謙市委員
 鈴木隆之委員 西澤基示郎委員 森下晃司委員
 山田紀代美委員 弓桁智浩委員

（2）事務局

健康福祉部 小松靖弘部長
 介護保険課 谷口弘記課長 鈴木真弓課長補佐 名倉敦史主幹
 伊藤宏樹副主幹 中村和正副主幹 前和恭副主幹
 高齢者福祉課 亀田岳史次長兼課長 坂本田佳子担当課長 大石尚課長補佐

4 傍聴者 0名

5 議事内容

（1）令和5年度介護保険事業について

（2）はままつ友愛の高齢者プランの令和5年度事業実績について

6 会議録作成者 介護保険課 総務・給付グループ 伊東

7 記録の方法 発言者の要点記録

録音の有無 有・☒ 無

8 会 議 記 録

1 開会

2 委員、職員の紹介

3 会長あいさつ

4 健康福祉部長あいさつ

5 議事

(1) 令和5年度介護保険事業について

(会長)

議事1点目「令和5年度介護保険事業について」、事務局から説明願いたい。

<事務局から資料1について説明>

(会長)

ただいま事務局から説明があったが、ご意見、ご質問等があれば発言を願いたい。

(A委員)

地域で自分らしく暮らしていけるということを目指している中で、介護認定について、介護度がつくようになってから申請する方がいいのか、早めに申請することを周知し、介護度が進行しないよう通所サービスなどを使用して進行を抑えていく方がよいのか市の考えを伺いたい。

(事務局)

悪化しないように早い段階から取り組むよう推進しており、国の考える方向と一致している。

(A委員)

要介護認定を受けてサービスを使用している人もいるが、受けてない方もすごく多い。地域で自分らしく暮らしていけるためには、介護保険制度のアピールが必要であるし、早期発見する仕組み作りをしていかないといけないので、その点を考えてもらいたい。

(B委員)

本年、4月から5月に高齢者の実態調査をした中で、要介護認定の申請をしていない人が感覚的には多かったということを報告する。必要である人に周知できていないという気がする。

(事務局)

地域、民生委員の方々、地域包括支援センターの協力をいただき、介護サービスを使えるよう努める。周知について検討していく。

(C 委員)

地域支援事業費と介護給付費の予算確保の割合についての考え方と、I C Tやインフラ整備についてどの程度投資していく計画があるか考えを伺いたい。

(事務局)

介護予防に力を入れていく。D Xについては個人情報の取り扱いが課題となっているが、国や他市の動向を参考に、遅れることがないように検討していく。

(D 委員)

特別養護老人ホームの待機者が全市的に減少傾向である。施設経営も難航している、また、今後も難航する中、介護保険以外のサービス付き高齢者住宅や有料老人ホームなどが、新たに市内にたくさんできてきている状況である。介護保険のサービスの実績だけではなく、関連する民間が行っているサービスの実態把握についての取りまとめは可能か。

(高齢者福祉課)

高齢者福祉課では、サービス付き高齢者住宅や有料老人ホームの状況は毎年確認しており、数字も把握している。介護保険の事業計画におけるサービス見込量として入所者数を掲載していないが、参考に有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅の状況として、施設数や定員等を掲載している。入所者数の見込としての視点は大事なので検討していく。

(D 委員)

両軸でみてとれるようなデータの示し方をお願いしたい。

(E 委員)

介護サービス事業所の状況が減少傾向にあるが、廃止になった事業所の理由を教えてください。減少傾向により、他の事業所に負担がかかると思うが、市の対応や、考えを教えてください。

(事務局)

居宅介護支援事業所は、廃止している事業所が 13 件あり、人員不足またはケアマネジャーの高齢化により事業継続が困難になったためである。管理者は主任ケアマネジャーの資格が必要であるが、管理者が退職し、新たな主任ケアマネジャーの確

保が難しく廃業になったというのが主な理由として把握している内容である。介護人材の確保が大きな課題となっており、職員の負担軽減、D X 及び I C T の導入など静岡県が中心となり実施しているため、浜松市では活用に対する周知を実施している。また、国からは 2026 年までに介護生産性向上総合センターを設置するよう言われているが、静岡県では設けられていない状況である。浜松市としては、9 月に設置について要望しているが、来年度以降、早期実現を図るよう引き続きお願いしていく。

<事務局から事前質問に係る資料について説明>

(C 委員)

天竜区や、旧北区のケアマネジャーが減少している。国は今年度の報酬改定で一人あたり 50 件と言っているが、現実問題、その件数を受けたら業務が回らない。その影響が北部だけだと思っていたら、旧中区でも疲弊している状況が感じられる。要介護認定の申請数や第 1 号被保険者の認定者数が増えているため、ケアマネジャー数が微減であっても非常に苦しい状況である。静岡県の調査では、50 代以上のケアマネジャーが 4 割であり、退職が目に見えている年代が非常に増え、介護支援専門員連絡協議会では非常に危機感を持っている。対応が非常に難しいケースが増え、様々な知識がなければやっていけない業務である。そんな中で、人手不足やケアマネジャー不足をどのように解消するかについて、業界の方では 3 年前くらいから議論していただく機会を設けていただくよう要望させていただいている。

(事務局)

共に考えて参りたい。

(会長)

この案件については聞き置くこととする。

(2) はままつ友愛の高齢者プランの令和 5 年度事業実績について

(会長)

次に、「はままつ友愛の高齢者プランの令和 5 年度事業実績について」事務局から説明願いたい。

<事務局から資料 2 について説明>

(会長)

ただいま事務局から説明があったが、ご意見、ご質問等があれば発言を願いたい。

(A委員)

介護の担い手として外国人を受け入れる制度があるが、各法人は受入れに対して積極的なのかを教えてください。

(事務局)

E P Aの受入れに対する補助は、現在2事業所で実施している。他の法人では、E P A以外で受入れを実施しようとしている施設はいくらか見られるため、介護人材不足の解消に向けて外国人が有効な手段として考えられているのではと思う。

(会長)

この案件については聞き置くこととする。

7 その他

(事務局)

会議録については、作成次第送付させていただくので、確認をお願いしたい。
次回の会議については、2～3月頃を予定しているため、詳細については、改めて連絡させていただくこととする。

8 閉会